

## 第 1 回 県央二次医療圏 地域ワーキンググループ 結果概要

日時 令和 6 年 7 月 8 日 (月) 19:00~21:00

場所 海老名市文化会館 大ホール棟多目的室

## ① 第 8 次保健医療計画下における地域医療構想について

医療企画課より、令和 6 年度の保健医療計画推進会議等の運営、推進区域の設定、病床整備事前協議の方向性、地域包括医療病棟の取扱いについて資料に基づき説明。

## &lt;主な意見&gt;

- ・ 県央地区は、数値上は回復期機能が不足だが、実際に不足しているか分からない。不足する機能から他の不足する機能への転換については、県としてはどう考えるか。  
→まさにその点について 7 月 23 日開催予定の県保健医療計画推進会議で議論したいと考えている。機能転換については、地域の医療体制を継続するため、経営面も考慮し、医療機関側に寄り添うことも必要ではないかと考えている。(医療企画課)
- ・ 地域包括医療病棟の扱いはどうなるのか。  
→地域包括医療病棟の病床機能報告状の取扱いについて、国の見解が出されるのを待っている。(医療企画課)
- ・ 先日、産業医科大学の松田晋哉教授の講演を聞いたが、国の示す数値に縛られず、地域のニーズに合った医療を提供することが大切とのことだった。また、まずはツールが公開されているので、自分の地区の地区診断をしてくださいとのことであった。  
→国のワーキンググループの議論を注視するとともに、分析ツールの活用も検討してみたい。(医療企画課)

## ② 地域医療構想について

座間総合病院及び相武台病院から、病床機能転換計画および 2025 プラン変更について資料に基づき説明。

## &lt;座間総合病院について&gt;

- ・ 地域包括医療病床は、急性期を減らしたい、高齢者救急をなんとかしたいという国のねらいがある。急性期と回復期の中間との印象。
- ・ 在宅復帰率はどうして最近上がったのか。  
→当院は病床種別が幅広くあるので、患者に応じて入院する病床を振り分けている。また、地元の施設の方々とも連携・協力している。(座間総合病院)
- ・ 地域包括医療病棟については、国が入院日数を減らすために設けたものと考えている。しっかり維持できるようにやってほしい。かかりつけ医との連携がないと成り立たないと思うが、地域の医師会としては協力できることはやっていきたい。
- ・ 地域包括医療病床に対する地域の意見は県から国に伝えてほしい。3 年間の特例措置はあるようだが、国が誘導したいのであれば、転換しやすい形で行ってほしい。

<相武台病院について>

- ・将来的には療養病床の一部を回復期に転換予定とのことだが、不足する機能から不足する機能への転換について県はどう考えるか。  
→最終的には地域の判断となる。
- ・救急受入れ廃止や外来縮小の対応策は、相武台病院ではどう考えているか。  
→救急の受入れは月7台程度、高齢者の入院は19名前後。救急の連絡を受けてもなかなか病名的に受けられないことが多いのが現状。外来については、全体で一日122名程度。検査機器の件も含めて継続が困難な状況であり、10月時点での外来縮小の方針は変えられない。

<両病院の転換計画について>

- ・相武台病院は、二次救急の受入れはあまり多くなかったようだが、外来を縮小することについて、地域がどう対応していけばよいのかと思う。
- ・座間総合病院の地域包括医療病棟への転換については、高齢者救急を座間総合病院で診てくれるのであればよいことだが、下りがうまく流れていくのかどうか。病床機能として急性期として扱うのか明確でない中で、どう対応したらよいか不安がある。
- ・地区の救急の体制をどう保つか心配している。地域内の病院間だけでなく、施設も含めてどう連携していけばよいか、考えているところ。互いにしっかりと意思疎通をして考えていかなければいけないと考えている。
- ・病院だけで地域がまわる訳ではない。在宅や施設との連携が必要であり、地区医師会の意見を参考にすすめていただきたい。本日の意見交換の内容を、県央地区保健医療福祉推進会議に地域の意見としてあげていきたい。

③ 2025 プラン更新について

湘陽かしわ台病院、南大和病院、神奈川中央病院の変更プラン（機能転換なし）について資料に基づき説明。

意見なし。

④ 県央地区における高度急性期病床の在り方について

厚木保健福祉事務所より、7月23日開催予定の県保健医療計画推進会議における病床機能に関する議論の方向性を踏まえて、第2回地域ワーキンググループにおいて意見交換を行う予定を説明。

意見なし

## ⑤ その他

- ・地域の既存病床数が基準病床数より過剰の場合に、病床整備事前協議の実施について県央地区保健医療福祉推進会議に諮ることはできるか。  
→例外として特例病床というルールは設けられているが、原則は病床整備出来ない。(医療企画課)
- ・病床が不足の場合に、病床整備事前協議を実施するかどうかについて、地域の医療機関が意見を言うことはできるか。  
→実施するかどうかについては、県央地区保健医療福祉推進会議において地域の意見を取りまとめるが、その前に地域ワーキンググループの場で参考に意見を伺うことは考えられる。
- ・非稼働病床の扱いについて、議論を行う予定はあるか。  
→県央地区に限らず、新たな病床整備を行うよりも、非稼働病床を稼働させる議論も必要との意見をいただいている。まずは、実態調査の実施など現状の把握からすすめていきたいと考えている。(医療企画課)
- ・昨年度の病床整備事前協議において配分された医療機関のうち、綾瀬厚生病院の状況について報告する。許可申請等の手続きが予定通り進んでいるとのこと。

以上



## 2025年に向けた対応方針

作成日	2024年5月20日						
医療機関名称	湘陽かしわ台病院			開設者	医療法人社団医誠会		
所在地	神奈川県海老名市柏ヶ谷584-2						
医療機関の現状							
病床種別		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計
	許可病床数	59床	140床				199床
	稼働病床数	59床	140床				199床
病床機能 (2023年)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計
	許可病床数		39床	100床	60床		199床
	稼働病床数		39床	100床	60床		199床
診療科目	内科・外科・整形外科・脳神経内科・消化器内科・呼吸器内科・リウマチ科・リハビリテーション科・形成外科・麻酔科・循環器内科						
職員数	医師 45名 看護師 117名 看護補助者 62名 薬剤師 7名 薬剤科助手 2名 放射線技師 6名 臨床検査技師 8名 管理栄養士 7名 調理補助 14名 診療情報管理士 1名 リハビリ 64名 健診部 16名 運転手 2名 事務 43名						
指定・届出等の 状況 (指定を受けているもの、届出をしているものに○)	救急病院	緩和ケア病棟	地域包括ケア病棟(病床)	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	
		( 床)	(20床)	(80床)	○		
自院の特徴、得意分野、特筆すべき事項等	在宅療養支援病院でもあり、地域の高齢者介護施設との連携や在宅要介護高齢者を支える通所リハビリテーション・訪問看護・訪問リハビリテーションを併設し在宅連携を強化している。診療においても高齢者に多い疾患(肺炎・脱水)を中心に受け入れを積極的に行っている。						
課題等	医師をはじめとする職員採用						
2025年に向けた方針							
病床機能 (2025年予定)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	介護施設等	計
		39床	100床	60床			199床
今後地域で担う役割等	一部の急性期から回復期および慢性期を担う病院としたい。また積極的に在宅を含む高齢者施設等との連携を重視し、近隣開業医との関係も強化していく。						

病床機能の変更 (増床・減床を含む)を予定している場合 ・具体的内容 ・理由 ・予定時期等	2022年6月 80床増床(療養病床)119床→199床 2022年6月 急性期59床 慢性期140床 →急性期39床 回復期100床(地ケア20床) 慢性期60床 に変更済み。  今後変更予定なし		
診療科や、その他の機能の変更、見直し等を予定している場合 ・具体的内容 ・理由 ・予定時期等	診療科に大きな変更はないが地域ニーズに対し求められる医療サービスを提供したい。		
その他・自由記載欄			
<b>数値目標等</b>			
項目	現状(2018年)	目標(2025年)	※病棟ごとに大きく異なる場合は、病棟ごとに記載
病床稼働率	90.00%	90%	
手術室稼働率	50%	70%	
紹介率	未算定		
逆紹介率	未算定		
<b>他医療機関・介護施設等との連携について</b>			
主な受入元 (医療機関・施設名)	海老名総合病院・聖マリアンナ医科大学西部病院・東海大学附属病院		
主な退院先 (医療機関名・施設名)	在宅 特別養護老人ホーム(みなみ風・第二座間苑)		
特に力を入れている疾患等	整形系疾患、脳神経内科系疾患		
入院不可・対応不可の疾患等	小児科系疾患・産科周産期疾患・精神科系疾患・耳鼻科系疾患・眼科系疾患		
連携に関する要望や課題認識等			

## 2025年に向けた対応方針

作成日	2024年5月17日						
医療機関名称	南大和病院			開設者	医療法人新都市医療研究会「君津」会		
所在地	神奈川県大和市下和田1331-2						
医療機関の現状							
病床種別		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計
	許可病床数	140床					140床
	稼働病床数	140床					140床
病床機能 (2023年)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計
	許可病床数		100床	40床			140床
	稼働病床数		100床	40床			140床
診療科目	内科、外科、消化器外科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、整形外科、形成外科、呼吸器内科、呼吸器外科、神経内科、脳神経外科、リウマチ科、アレルギー科、血管外科、リハビリテーション科、糖尿病内科、泌尿器科、乳腺外科、眼科、耳鼻科、肛門外科、人工透析内科、放射線科、心臓血管外科、麻酔科						
職員数	医師20.4人、看護師92人、准看護師12名、薬剤師6.7名、診療放射線技師5.8名 臨床検査技師10.8名、理学療法士18名、作業療法士9名、言語聴覚士3名、管理栄養士4名 臨床工学技士18名、社会福祉士3名、事務員39名、その他76名						
指定・届出等の 状況 (指定を受けているもの、届出をしているものに○)	救急病院	緩和ケア病棟	地域包括ケア病棟(病床)	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	
	○		○ (20床)	○ (40床)	○		
自院の特徴、得意分野、特筆すべき事項等	理念〔患者を支える・家族を支える・地域を支える〕に基づき地域医療に貢献する。 ・がん治療 ・CKD患者の人工透析治療 ・在宅復帰を促進させるためのリハビリテーション ・救急医療(大和市の輪番病院に参加) ・近隣高齢者福祉施設と連携をとり地域住民が安心できる医療の提供。 ・在宅医療(往診・訪問看護・訪問栄養指導・訪問リハビリ) これらの医療を病病連携・病診連携を行いながら地域住民に提供している。						
課題等	今後機能強化を行うためには建物などハード面が不安である。 増床を行うには増改築もしくは全面移転が必要であるが、都市計画法(緑地制限や調整区域での開発行為など)などの制限が厳しく困難をきたしている。これらの規制緩和の為に、保健福祉事務所や市の健康づくり推進課からの働きかけをお願いしたい。						
2025年に向けた方針							
病床機能 (2025年予定)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	介護施設等	計
		100床	40床	50床			190床

今後地域で担う役割等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等症・軽傷の救急患者を受け入れ、3次救急病院の負担軽減を担う。</li> <li>・基幹病院にて治療が終えた患者を受け入れ、後方支援を担う。</li> <li>・在宅医療を充実させ地域住民に安心・安全の医療を提供する。</li> </ul>		
病床機能の変更(増床・減床を含む)を予定している場合 ・具体的内容 ・理由 ・予定時期等	コロナ感染症の影響による計画時期見直しと行政との道路建設の話合いの長期化による計画遅延。今後は計画病床数をみながら時期を検討する。		
診療科や、その他の機能の変更、見直し等を予定している場合 ・具体的内容 ・理由 ・予定時期等			
その他・自由記載欄			
<b>数値目標等</b>			
項目	現状(2023年)	目標(2025年)	※病棟ごとに大きく異なる場合は、病棟ごとに記載
病床稼働率	84.00%	90%	
手術室稼働率			
紹介率	41.00%	43.00%	
逆紹介率	10.00%	12%	
<b>他医療機関・介護施設等との連携について</b>			
主な受入元 (医療機関・施設名)	① 救急搬送(39%、1,269名) ② 大和市立病院(5.6%、182名) ③ 東芝林間病院(4.9%、158名) 2023年実績		
主な退院先 (医療機関名・施設名)	① 在宅71.3% ② 老人保健施設6.7% ③ 有料老人ホーム等 7% ④ 病院(転院など 4.9%)		
特に力を入れている疾患等			
入院不可・対応不可の疾患等			
連携に関する要望や課題認識等			



**他病院との連携について**

<p>主な受入元 (医療機関・施設名)</p>	<p>厚木佐藤病院, 東名厚木病院, 厚木市立病院, 近藤病院, 湘南厚木病院, 仁厚会病院, 相模台病院, 座間総合病院, 海老名総合病院, オアシス湘南病院, 大和病院, 相模更生病院, 伊勢原共同病院, けやきの杜病院</p>
<p>主な退院先 (医療機関名・施設名)</p>	<p>厚木佐藤病院, 東名厚木病院, 厚木市立病院, 近藤病院, 湘南厚木病院, 仁厚会病院, 座間総合病院, 海老名総合病院, オアシス湘南病院, 小松会病院, 長岡病院, 湘陽かしわ台病院</p>
<p>入院不可・対応不可の疾患等</p>	<p>入院不可: 認知症の診断が出来ない患者様 対応不可: 設備上行えないもの(麻薬, 疼痛管理, 人工透析, 中心静脈栄養, 気管切開 など)</p>
<p>連携に関する要望や課題認識等 (自由記載)</p>	<p>患者様の正確な状態がわかれば、できる限り早い段階での入院は可能です。</p>

## 2025年に向けた対応方針について

作成日	2024年5月21日						
医療機関名称	神奈川中央病院		開設者	医療法人社団やすらぎ会 理事長 上田 聖子			
所在地	厚木市関口812-5						
医療機関の現状							
病床種別		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計
	許可病床数			180床			180床
	1日平均入院患者数			115床			115床
指定病床数 (精神病床)	180床 床						
精神科専門病棟 の病床数	急性期治療	精神療養	認知症治療	合併症	その他 (アルコール、薬物、児童・思春期)		計
			180床				180床
診療科目	精神科, 内科						
職員数	[ 常勤換算数:24.05.01時点 ] 医師:8.75人, 薬剤師:1.8人, 診療放射線技師:1.0人, 臨床検査技師:1.8人, 管理栄養士:1.0人, 看護職員:39.7人, 看護補助職員:20.8人, 精神保健福祉士:2.4人, 社会福祉士:1.0人, 医療相談員:2.0人, 事務職員:6.3人,						
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後増加される認知症患者の受け入れの強化</li> <li>・軽度認知症患者の診療並びに身体合併症の診療も充実させ、地域連携の強化を図る</li> <li>・人員増加し、残り許可病床の稼働を行う</li> </ul>						
今後の方針							
病床種別 (2025予定)	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計	
			180床			180床	
精神科専門病棟 の病床数 (2025予定)	急性期治療	精神療養	認知症治療	合併症	その他 (アルコール、薬物、児童・思春期)		計
			180床				180床
今後地域で担う 役割等	地域の認知症治療の専門病院として役割を担い、軽度・中等度・高度、全ての認知症患者への診療と、介護施設・在宅へのフォローアップも行う						
病床機能の変更 (増床・減床を含む)、診療科の変更を予定している場合 ・具体的内容 ・理由 ・予定時期等	予定無し						